

第2章 フリーターへの経路

1. はじめに

本章の目的は、フリーター経験者に焦点をあて、誰がどのようにフリーターになっているのか、フリーター理由、フリーター3類型、フリーター経験の評価について検討することである。分析の際には、第1回の2001年調査と比較可能な点について特に言及する。本報告書におけるフリーター経験とは、学校を離れたあとのパート・アルバイト就業の経験である。

第2節では、フリーター経験者と属性について、第3節ではフリーター理由について分析する。第4節では、フリーター経験をとりあげて、期間、職種、フリーター経験の評価について検討する。

2. フリーター経験者の属性

本節では就業経験としてのパート・アルバイト（学校在学中の経験を除く）の経験率と属性との関連を検討する。本節で対象となるのは、就業経験を持たない若者19名を除いた、男性1028名、女性953名である。

フリーター経験率についてみると、東京都の18-29歳層のフリーター経験率はおよそ半数に達しており、第2回調査の方が全体として低学歴層が多く含まれているという調査上の問題はあつたものの、2001年には全体で約36%だったことを考えると、大きく上昇している。

図表2-1 フリーター経験率

		2001年 フリーター経 験率	2006年 フリーター経 験率
計		35	48.7
男性	年齢別 18-19歳	55	72.5
	20-24歳	41	51.9
	25-29歳	31	41.3
本人学歴	高卒以下	49	62.2
	高卒超	26	37.5
計		36	53.2
女性	年齢別 18-19歳	43	77.4
	20-24歳	35	50.4
	25-29歳	36	50.0
本人学歴	高卒以下	52	74.4
	高卒超	26	41.1

注：2001年については在学中やその他、不明を省略。
ウエイトバックしているため小数点以下は示していない。
2006年については学歴その他を省略。

続いて、属性との関連について検討する。

まず年齢との関連を見ると、若い世代ほどフリーター経験率が高くなっている。こうした傾向は2001年でも確認できたが、2001年のフリーター経験率は男性10代で約55%、女性

10代で43%程度であった。しかし今回調査では、男性10代では72.5%、女性で77.4%とともに7割を超えており、高等教育に進学しない場合のフリーター経験はきわめて一般化している。

学歴を考慮しても、よりこの傾向がはっきりする。高卒以下だと、男性で6割、女性で7割のフリーター経験率があるが、高卒超の学歴だと男女共に4割程度に低下する。前回調査は男女とも、高卒以下では半数、高卒超学歴では3割に満たなかったフリーター経験率はともに上昇したが、いぜんとして高卒以下の若者と高卒超の若者のフリーター率の差は大きい。

家庭的背景とフリーター率について検討したところ、父学歴・母学歴による差はあまり見られなかった。生家の経済的豊かさについては、2001年でも、豊かであると3割、豊かでないと4割がフリーターを経験していたが、2006年調査でも、経済的に豊かでないとフリーター経験率は高まった。

図表2-2 経済的豊かさとフリーター経験率

		フリーター経験 なし	フリーター経験 あり	無回答	N
男性	豊か	58.4	41.4	0.2	464
	豊かでない	42.4	57.2	0.5	425
	該当者なし・わからない	52.5	47.5	0.0	139
	合計	51.0	48.7	0.3	1028
女性	豊か	50.7	48.8	0.4	469
	豊かでない	40.6	58.9	0.6	360
	該当者なし・わからない	46.8	53.2	0.0	124
	合計	46.4	53.2	0.4	953

以上のように、フリーター経験率は全体として上昇したが、特にフリーター経験率が上昇したのは、10代、本人が高卒以下の学歴の者、生家が豊かでない者たちであった。

3. フリーターになる理由

本節では、フリーター経験があると回答した998名について、フリーター理由の分析を行なう。

フリーター理由について前回と比較してみると、「仕事以外にしたいことがあるから」「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」「なんとなく」が増加した。「自分に合う仕事をみつけるため」「学費稼ぎなど、生活のため一時的に働く必要があったから」「自由な働き方をしたかったから」については減少した。

さらに、年齢・学歴・家庭の経済的豊かさとフリーター理由の関連を検討した。

年齢別に見ると、年齢ないしは世代によって理由が異なっている。

男性では年齢が上がると、「仕事以外にしたいことがあるから」「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」「自分に合う仕事を見つめるため」が増加し、「学費稼ぎなど、生活のため一時的に働く必要があったから」「なんとなく」の割合が低下する。

女性は 10 代では「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」「学費稼ぎなど、生活のため一時的に働く必要があったから」が多いが、20 代前半で「自分に合う仕事を見つけるため」が 4 割を占めるようになり、20 代後半でも 3 割を占める。

図表 2-3 フリーター理由（年齢別）

		仕事以外にしたいことがあるから	つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として	自分に合う仕事を見つけるため	正社員として採用されなかったから	学費稼ぎなど、生活のために一時的に働く必要があったから	なんとなく
男性	計	24.2	27.5	36.3	11.8	18.6	28.9
	18-19歳	16.7	20.5	25.6	7.7	25.6	38.5
	20-24歳	25.1	27.5	38.6	13.0	14.5	29.0
	25-29歳	26.2	29.9	37.9	12.1	20.1	25.2
女性	計	20.2	21.6	35.1	12.0	16.6	24.6
	18-19歳	21.5	29.1	25.3	6.3	22.8	21.5
	20-24歳	20.7	17.0	41.5	13.8	17.6	26.1
	25-29歳	19.4	22.8	33.2	12.5	13.8	24.6

		正社員はいやだったから	家庭の事情で	自由な働き方をしたかったから	その他	N
男性	計	7.2	5.0	18.8	4.4	499
	18-19歳	3.8	6.4	17.9	2.6	78
	20-24歳	6.3	4.3	21.3	5.3	207
	25-29歳	9.3	5.1	16.8	4.2	214
女性	計	12.4	12.8	27.5	5.4	499
	18-19歳	8.9	10.1	19.0	5.1	79
	20-24歳	14.4	10.1	33.5	5.3	188
	25-29歳	12.1	15.9	25.4	5.6	232

図表 2-4 フリーター理由（学歴）

		仕事以外にしたいことがあるから	つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として	自分に合う仕事を見つけるため	正社員として採用されなかったから	学費稼ぎなど、生活のために一時的に働く必要があったから	なんとなく
男性	計	24.2	27.5	36.3	11.8	18.6	28.9
	高卒以下	26.1	25.7	36.3	11.1	20.8	27.0
	高卒超	22.9	30.3	39.8	11.9	17.4	28.9
	該当者なし・わからない	22.9	24.3	27.1	12.9	15.7	35.7
	無回答	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
女性	計	20.2	21.6	35.1	12.0	16.6	24.6
	高卒以下	20.7	19.2	37.5	12.0	17.8	22.6
	高卒超	19.2	24.1	33.5	11.8	15.9	24.5
	該当者なし・わからない	24.4	20.0	33.3	13.3	13.3	35.6
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

		正社員はいやだったから	家庭の事情で	自由な働き方をしたかったから	その他	N
男性	計	7.2	5.0	18.8	4.4	499
	高卒以下	8.4	7.1	17.7	5.8	226
	高卒超	5.5	4.0	18.4	2.0	201
	該当者なし・わからない	8.6	1.4	22.9	5.7	70
	無回答	0.0	0.0	50.0	50.0	2
女性	計	12.4	12.8	27.5	5.4	499
	高卒以下	11.1	13.9	27.4	6.3	208
	高卒超	12.2	10.6	28.2	5.7	245
	該当者なし・わからない	20.0	20.0	24.4	0.0	45
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	1

学歴別にみると、男性でも女性でも「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」「正社員として採用されなかったから」が高卒超で高くなる。女性で「家庭の事情」を挙げる割合が高い。

父学歴・母学歴についてはあまり差が見られなかったので、経済的豊かさについて結果を示した。

図表 2-5 フリーター理由（経済的豊かさ）

	仕事以外にしたいことがあるから	つきたい仕事のための勉強や準備、修行期間として	自分に合う仕事を見つけるため	正社員として採用されなかったから	学費稼ぎなど、生活のために一時的に働く必要があったから	なんとなく
計	24.2	27.5	36.3	11.8	18.6	28.9
男性						
豊か	22.8	32.6	36.3	9.8	19.2	30.6
豊かでない	26.6	23.7	36.5	14.5	19.9	27.0
該当者なし・わからない	20.0	26.2	35.4	7.7	12.3	30.8
計	20.2	21.6	35.1	12.0	16.6	24.6
女性						
豊か	19.2	22.4	34.7	11.9	15.5	24.7
豊かでない	18.4	17.9	34.4	13.7	20.3	25.5
該当者なし・わからない	29.4	30.9	38.2	7.4	8.8	22.1

	正社員はいやだったから	家庭の事情で	自由な働き方をしたかったから	その他	N
計	7.2	5.0	18.8	4.4	499
男性					
豊か	7.3	2.1	20.2	2.6	193
豊かでない	8.3	7.5	18.7	6.2	241
該当者なし・わからない	3.1	4.6	15.4	3.1	65
計	12.4	12.8	27.5	5.4	499
女性					
豊か	11.4	11.0	27.9	7.3	219
豊かでない	11.8	17.0	28.8	3.3	212
該当者なし・わからない	17.6	5.9	22.1	5.9	68

男女とも豊かでない層で「仕事以外にしたいことがあるから」が高く、豊かな層で「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」の割合が高い。また女性では「学費稼ぎなど、生活のために一時的に働く必要があったから」「家庭の事情で」を上げる割合が、豊かでない層で高く、家庭の経済的状況が女性を直撃していることがうかがえる。

次に、もっとも重要な理由をひとつあげてもらった。

一部項目を変更したため、連続しない項目がある（第2回調査では、「つきたい仕事のため」という一連の項目を、「つきたい仕事への準備や勉強、修行期間のため」に統合した）。

全体としては「仕事以外にしたいことがあるので」が増加し、項目が変更されているため単純には比較できないが、「つきたい仕事への準備や勉強、修行期間のため」が増加した。「正社員として採用されなかったから」などはほとんど変わっていない。

図表 2-6 フリーター最大理由

		仕事以外に したいこと があるので	つきたい仕 事への準備 や勉強をす るため	つきたい仕 事の就職機 会を待た るため	つきたい仕 事がアルバ イト・パー トでできる から	自分に合う 仕事を見つ けるため	正社員とし て採用され なかったか ら	学費稼ぎな ど、生活の ために一時 的に働く必 要があった から
全体	2001	6.6	7.3	6.8	1.7	21.9	6.4	13.8
	2006	13.5	15.9			19.1	7.1	9.4
男性	2001	8.3	7.0	5.8	0.1	24.1	5.0	15.5
	2006	15.4	18.2			20.4	6.6	10.4
女性	2001	4.9	7.7	7.8	3.2	19.6	7.8	12.1
	2006	11.6	13.6			17.8	7.6	8.4

		なんとなく	正社員はい やだったか ら	家庭の事情 で	自由な働き 方をした かったから	その他	無回答	計
全体	2001	8.8	3.0	2.5	14.9	3.4	2.8	100.0
	2006	12.6	2.0	4.8	9.9	5.1	0.4	100.0
男性	2001	9.7	1.1	2.6	12.6	5.2	2.9	100.0
	2006	14.4	1.6	1.4	7.6	3.6	0.2	100.0
女性	2001	7.9	4.9	2.5	17.3	1.7	2.6	100.0
	2006	10.8	2.4	8.2	12.2	6.6	0.6	100.0

続いて、フリーター3類型について検討した。

第1回調査の分析を行なった調査研究報告書No.146（日本労働研究機構 2001）において、「フリーターになった契機」「フリーターになった当初の意識」に着目し、類型化を行なうことを通じて、フリーターの実態を把握しようと試みてきた。ヒアリング調査から導き出されたフリーター3類型は、次のようなものである。

- (a) 夢追求型 仕事以外にしたいことがあるため、当面の生活の糧を得るためにフリーターになったタイプ。第1回調査 14%→第2回調査 25%。
- (b) モラトリアム型 やりたいことを探したい、正社員になりたくないなどの理由からフリーターになったタイプ。第1回調査 47%→第2回調査 44%。
- (c) やむを得ず型 正社員になれない、または家庭の事情などで、やむなくフリーターになったタイプ。第1回調査 39%→第2回調査 31%。

なお類型の作成については、2001年調査と同様の手順で行なった。なお無回答に分類される者がいるため、類型に分類されたのは、男性で456名、女性で442名となった。まず選ばれた選択肢によって分類したが、相互に矛盾する回答が898名のうち109名存在した。これらの回答については、回答間の関連を検討し、2001年と同様のシンタックスを用いて類型を作成した。

2001年調査と2006年調査を比較してみると、夢追求型が全体として増加し、やむを得ず型が減少した。より詳しく見てみると、2001年調査では、男女とも年齢が上がると夢追求型が減少していたが、男性では夢追求型は年齢があがるほど増加し、女性においても年齢によって大きく変化しなくなった。

この調査は5年ごとであるので、前回調査の擬似的な世代別分析とも見立てることができ

る。前回の10代後半層は現在20代前半に相当するが、この世代の10代では夢追求型が男性は22.2%、女性では24.4%であったのが、年齢があがっても減少しなくなった。20代前半から20代後半は、男性で16.5%、女性で15.8%であったのが、20代後半になってむしろ夢追求型が増加している。若い層で増えたのが男性ではモラトリアム型であり、女性ではモラトリアム型が減少して、やむを得ず型が増加した。

図表2-7 フリーター3類型（年齢別）

		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	合計	N
男性	18-19歳	17.8	49.3	32.9	100.0	73
	20-24歳	26.8	47.4	25.8	100.0	190
	25-29歳	29.0	39.4	31.6	100.0	193
	計	26.3	44.3	29.4	100.0	456
女性	18-19歳	24.6	41.5	33.8	100.0	65
	20-24歳	22.7	46.5	30.8	100.0	172
	25-29歳	22.0	42.4	35.6	100.0	205
	計	22.6	43.9	33.5	100.0	442

学歴別には、男性高学歴層でやむを得ず型が多いという傾向には変化はないが、女性ではほとんど学歴による差は見られない。

図表2-8 フリーター3類型（学歴）

		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	計	N
男性	高卒以下	25.5	48.3	26.2	100.0	267
	高卒超	27.1	38.8	34.0	100.0	188
	その他	100.0	0.0	0.0	100.0	1
	計	26.3	44.3	29.4	100.0	456
女性	高卒以下	22.6	43.5	33.9	100.0	230
	高卒超	22.3	44.5	33.2	100.0	211
	その他	100.0	0.0	0.0	100.0	1
	計	22.6	43.9	33.5	100.0	442

家庭的背景については、親学歴による差はあまり見られなかった。経済的豊かさについては第1回調査ではほとんど差が見られなかったが、第2回調査では男女とも豊かでない層でやむを得ず型の割合が高くなり、豊かな層では夢追求型が増加した。

図表2-9 フリーター3類型（経済的豊かさ）

		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	計	N
男性	豊か	24.4	48.9	26.7	100.0	176
	豊かでない	28.8	38.3	32.9	100.0	222
	該当者なし・わからない	22.4	53.4	24.1	100.0	58
	計	26.3	44.3	29.4	100.0	456
女性	豊か	21.8	47.7	30.6	100.0	193
	豊かでない	20.2	38.3	41.5	100.0	193
	該当者なし・わからない	33.9	50.0	16.1	100.0	56
	計	22.6	43.9	33.5	100.0	442

図表 2-10 2001 年調査：フリーター 3 類型（経済的豊かさ）

		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	計
男性	豊かである	15.5	43.2	41.3	100.0
	豊かでない	15.9	46.4	37.7	100.0
	わからない	13.1	55.2	31.7	100.0
	計	15.4	46.3	38.2	100.0
女性	豊かである	11.5	47.8	40.7	100.0
	豊かでない	11.3	45.8	42.9	100.0
	わからない	14.0	54.0	32.0	100.0
	無回答	50.0	0.0	50.0	100.0
	計	11.8	47.5	40.7	100.0

学歴変数で統制しても、豊かでない層ではやむを得ず型の割合が高く、豊かな層ではモラトリアム型の割合が高くなる。

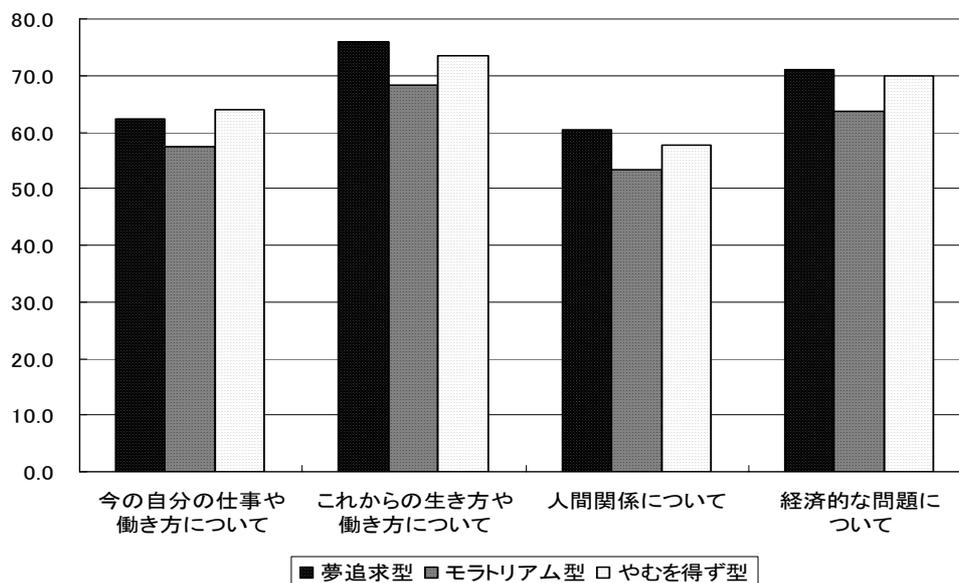
図表 2-11 フリーター 3 類型（学歴、経済的豊かさ）

		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	N
高卒以下	計	24.1	46.1	29.8	497
	豊か	20.6	52.2	27.2	180
	豊かでない	25.8	39.3	34.9	252
	該当者なし・わからない	27.7	55.4	16.9	65
高卒超	計	24.6	41.9	33.6	399
	豊か	25.4	44.4	30.2	189
	豊かでない	23.3	36.8	39.9	163
	該当者なし・わからない	25.5	48.9	25.5	47

さらにフリーター 3 類型に基づき、現在の悩みと自己評価について分析を加えた。

現在の悩みについては、悩みの内容に関わらず、モラトリアム型で一貫して低く、夢追求型で高くなっている。

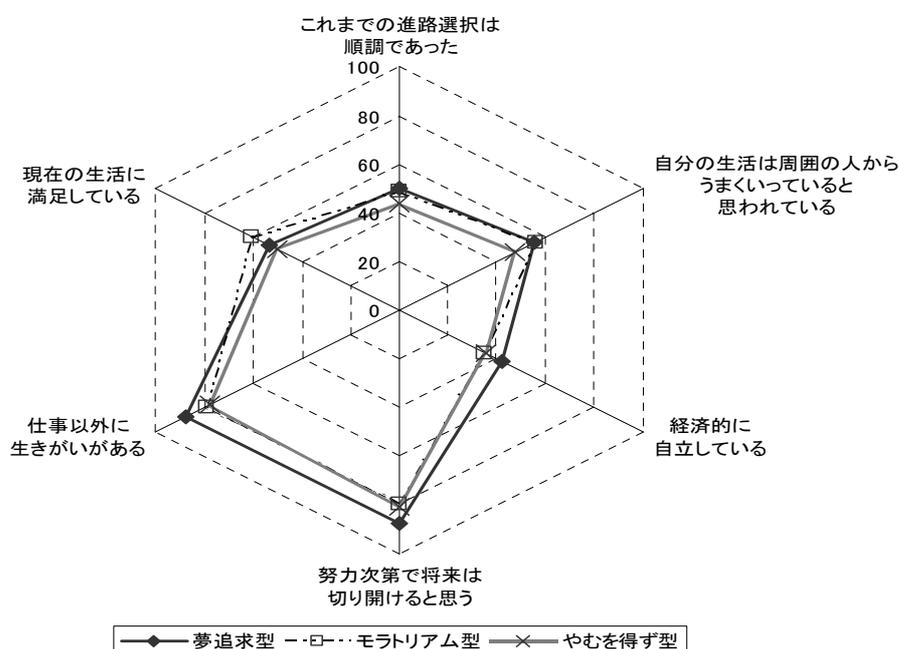
図表 2-12 現在の悩みについて「ある」と回答した割合



さらにフリーター3類型に基づき、現在の状況に対する自己評価を類型ごとにみると（「かなりあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）、「これまでの進路選択は順調であった」「自分の生活は周囲の人からうまくいっているとされている」「経済的に自立している」などは全体として低かった。

夢追求型は、「努力次第で将来は切り開けると思う」など将来に対する意欲がフリーターの中では高く、また仕事以外に生きがいがあると回答する割合が高くなっている。モラトリアム型は現在の生活に満足している割合が最も高く、やむを得ず型で現在の状況に対する自己評価が特に低くなっている。

図表2-13 現在の状況に対する自己評価（フリーター3類型）



このように、現在悩みはあるものの、総じて将来の見通しがフリーターの中では比較的明るいのが「夢追求型」であり、モラトリアム型は中間に位置しているが、やむを得ず型は現在の生活への満足度や将来の見通しについて悲観的な傾向が見られる。

以上から、フリーター3類型については、夢追求型が増加し、やむを得ず型は減少した。年齢があがると、2001年調査は夢追求型が減少したが、2006年調査ではむしろ増加傾向になった。家庭的背景との関連をみると、豊かでない層でやむを得ず型の割合が高く、豊かな層ではモラトリアム型が高い。

4. フリーター経験

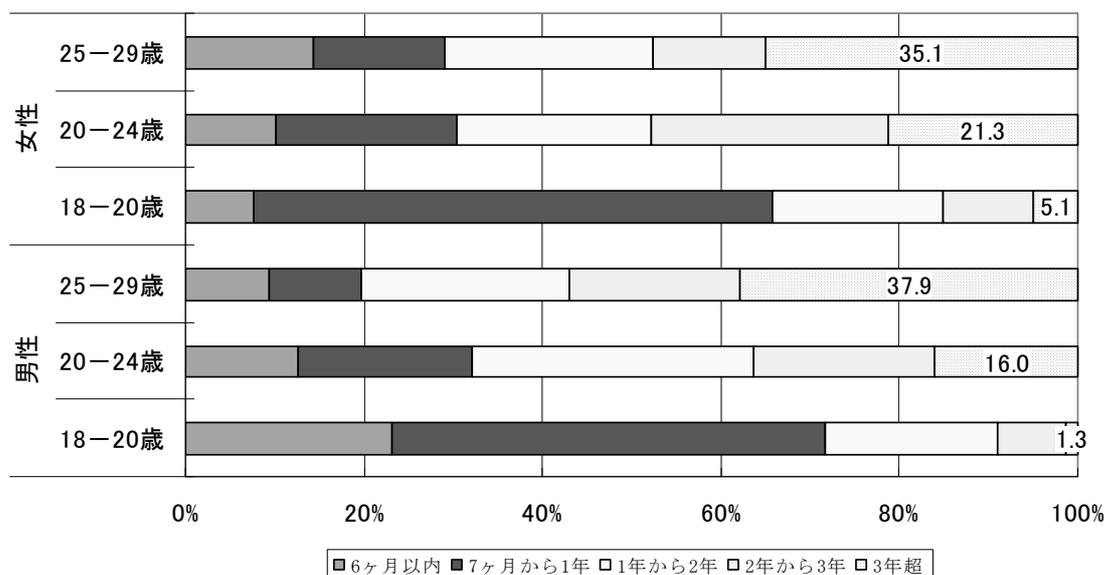
本節ではフリーター経験をとりあげ、フリーター期間、職種、感じたことについて分析する。

フリーター期間について検討したところ、3年以上フリーター経験がある者が4分の1を

占めた。前回調査では、3年を超える者は2割程度であった。また6ヶ月以内の者は、前回調査では男性で22%、女性で15%程度であったが、特に男性で6ヶ月以内の割合が低下している。なおこのフリーター期間には、現在フリーターの者とすでに離脱した者の両方が含まれていることには注意が必要である。

年齢別に見ると、男性の20代後半層では37.9%が、女性では35.1%が3年以上になっている。

図表2-14 フリーター期間（年齢別）



図表2-15 フリーター期間（学歴）

		6ヶ月以内	7ヶ月から1年	1年から2年	2年から3年	3年超	N
男性	計	12.9	20.1	26.1	17.9	23.1	498
	高卒以下	11.8	22.3	23.7	18.1	24.0	287
	高卒超	14.3	16.7	29.5	17.6	21.9	210
	その他	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	1
女性	計	11.6	23.7	22.1	17.5	25.1	498
	高卒以下	6.4	23.7	20.1	17.7	32.1	249
	高卒超	16.9	23.8	24.2	16.9	18.1	248
	その他	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	1

学歴別には、男性ではあまり差は見られないが、女性では学歴が低いとフリーター期間が長い傾向がはっきりしている。

次に、フリーターの職種について検討した。

図表 2-16 フリーター職種 (性別計)

	ファーストフードの店員やウエイトレス	コンビニやスーパーの店員	ガソリンスタンド店員	雑貨小物屋・本屋等の店員	お弁当・総菜屋・パン屋等の店員	ゲーセン・カラオケ	アパレル・洋服販売
18-20歳	41.4	33.8	7.0	3.8	9.6	3.8	14.0
20-24歳	30.9	34.7	8.1	7.6	9.9	6.6	12.4
25-29歳	28.8	28.3	8.8	8.1	7.4	6.5	15.5
	調理・コック	皿洗い・洗い場	出前・配達	チラシ・ピラ配り	イベントスタッフ	遊園地・球場	風俗関係
18-20歳	8.3	4.5	10.2	8.3	7.0	1.3	1.3
20-24歳	11.9	7.8	8.4	9.1	8.9	2.8	3.3
25-29歳	13.0	7.6	7.9	8.3	12.8	3.1	1.8
	清掃・ビルメンテナンス	土木・建設現場	製造・組立	事務	塾・予備校教師	その他	N
18-20歳	3.8	6.4	3.8	0.6	0.6	7.6	157
20-24歳	5.8	6.6	5.3	9.9	1.8	19.5	395
25-29歳	5.6	11.0	6.7	16.6	2.5	17.3	445

年齢別に見ると、年齢ないしは世代によって経験職種が変化していることがわかる。ファーストフードの店員やウエイトレス、コンビニやスーパーの店員を経験した割合は、年齢と共に下降する。年齢が上がると、事務、土木・建設現場などが増加している。

より詳しく男女別に見ると、18-19歳層は男女ともファーストフードの店員やウエイトレス、コンビニやスーパーの店員を経験した割合は、男性が7割、女性は8割を占める。しかし20代後半層になるとその割合は下がり、かわりに男性は土木・建設現場、女性は事務や雑貨小物屋・本屋等の店員が増加する。

図表 2-17 フリーター職種 (年齢別)

	ファーストフードの店員やウエイトレス	コンビニやスーパーの店員	ガソリンスタンド店員	雑貨小物屋・本屋等の店員	お弁当・総菜屋・パン屋等の店員	ゲーセン・カラオケ	アパレル・洋服販売	
計	25.3	33.9	12.9	6.0	6.0	9.2	2.8	
男性	18-19歳	32.1	37.2	12.8	1.3	2.6	7.7	2.6
20-24歳	24.2	36.7	11.1	6.3	6.3	8.7	1.4	
25-29歳	23.9	30.0	14.6	7.5	7.0	10.3	4.2	
計	40.7	30.9	3.6	13.6	12.6	6.4	6.8	
女性	18-19歳	55.7	30.4	1.3	8.9	17.7	1.3	5.1
20-24歳	41.5	34.0	4.8	13.3	14.4	7.4	8.5	
25-29歳	34.9	28.4	3.4	15.5	9.5	7.3	6.0	
	調理・コック	皿洗い・洗い場	出前・配達	チラシ・ピラ配り	イベントスタッフ	遊園地・球場	風俗関係	
計	16.3	9.6	17.1	6.6	8.8	2.2	2.4	
男性	18-19歳	11.5	7.7	19.2	6.4	3.8	1.3	1.3
20-24歳	16.9	9.7	16.4	5.8	7.2	2.9	3.4	
25-29歳	17.4	10.3	16.9	7.5	12.2	1.9	1.9	
計	7.4	4.8	1.0	10.6	11.8	3.2	2.6	
女性	18-19歳	5.1	1.3	3.8	10.1	10.1	1.3	1.3
20-24歳	6.4	5.9	0.5	12.8	10.6	2.7	4.3	
25-29歳	9.1	5.2	0.4	9.1	13.4	4.3	1.7	
	清掃・ビルメンテナンス	土木・建設現場	製造・組立	事務	塾・予備校教師	その他	N	
計	9.2	16.1	6.6	7.2	2.4	12.4	498	
男性	18-19歳	7.7	11.5	3.8	2.6	1.3	78	
20-24歳	7.2	12.1	5.3	6.3	2.4	14.5	207	
25-29歳	11.7	21.6	8.9	9.9	2.8	11.7	213	
計	1.6	1.0	4.8	22.4	1.6	14.0	499	
女性	18-19歳	0.0	1.3	3.8	5.1	0.0	79	
20-24歳	4.3	0.5	5.3	21.3	1.1	17.6	188	
25-29歳	0.0	1.3	4.7	29.3	2.6	14.7	232	

これを2001年の傾向と比べてみると(図表2-17)、かつてファーストフードの店員やウエイトレスを経験した割合は、年齢が上がると下がっていたわけではなかった。男性は年齢を問わず土木・建設現場の割合が高く、年齢が上がると清掃・ビルメンの割合が高いなど、2006年とは異なっていた。ただし女性20代後半の事務が増加することは共通しており、また2006年においては、ファーストフードの店員やウエイトレスなどのサービス職に男性の進出が進んでいる。

年齢があがると、以前経験した職種を忘れてしまうことも多いと考えられるという問題はあるものの、2001年から2006年にかけてフリーターが増加するなかで、フリーターの職種が広がりつつあると考えられる。

図表2-18 2001年：フリーター職種(年齢別)

		ファーストフード店員やウエイトレス	コンビニやスーパーの店員	ガソリンスタンド店員	雑貨小物屋・本屋等の店員	お弁当・総菜屋・パン屋等の店員	ゲームセンター・カラオケ	その他の販売
男性	18-19歳	12.6	31.5	6.3	0.0	4.5	11.7	1.8
	20-24歳	13.7	32.5	19.5	5.7	4.7	14.9	3.6
	25-29歳	17.4	28.5	11.2	7.9	12.2	8.9	9.9
女性	18-19歳	37.4	51.1	2.3	1.1	9.1	21.6	5.7
	20-24歳	38.0	47.5	2.8	13.4	10.6	7.0	9.2
	25-29歳	43.8	27.7	6.3	9.9	11.1	5.8	13.5
		調理・コック	皿洗い・洗い場	出前・配達	チラシ・ピラ配り	イベントスタッフ	遊園地・球場	風俗関係
男性	18-19歳	9.0	10.8	36.9	6.3	4.5	0.0	1.8
	20-24歳	10.4	12.7	21.0	3.4	3.4	0.4	4.1
	25-29歳	19.9	12.7	19.9	4.7	6.2	8.7	4.1
女性	18-19歳	2.3	18.2	1.1	6.8	3.4	0.0	3.4
	20-24歳	2.0	2.8	3.1	7.3	9.5	2.0	2.8
	25-29歳	6.3	2.7	1.8	4.3	9.1	0.8	0.3
		清掃・ビルメン	土木・建設現場	製造・組立	事務	塾・予備校講師		
男性	18-19歳	2.7	26.1	7.2	0.9	0.0		
	20-24歳	16.3	14.7	8.4	1.6	0.5		
	25-29歳	22.2	27.7	12.1	7.1	2.2		
女性	18-19歳	4.5	1.1	2.3	5.7	1.1		
	20-24歳	2.0	2.8	5.6	18.2	1.1		
	25-29歳	1.8	0.6	0.8	34.1	0.9		

図表2-19 フリーター職種(学歴)

		ファーストフードの店員やウエイトレス	コンビニやスーパーの店員	ガソリンスタンド店員	雑貨小物屋・本屋等の店員	お弁当・総菜屋・パン屋等の店員	ゲーセン・カラオケ	アパレル・洋服販売
男性	計	25.4	34.0	12.9	6.0	6.0	9.3	2.8
	高卒以下	27.5	37.6	14.6	4.9	5.9	9.1	3.1
	高卒超	22.4	29.0	10.5	7.6	6.2	9.5	2.4
女性	計	40.8	30.7	3.6	13.7	12.7	6.4	6.8
	高卒以下	49.4	36.5	6.0	10.8	16.9	9.2	5.2
	高卒超	32.1	24.9	1.2	16.5	8.4	3.6	8.4
		調理・コック	皿洗い・洗い場	出前・配達	チラシ・ピラ配り	イベントスタッフ	遊園地・球場	風俗関係
男性	計	16.3	9.7	17.1	6.6	8.9	2.0	2.4
	高卒以下	17.4	11.8	19.5	7.7	9.4	2.1	2.8
	高卒超	14.8	6.7	13.8	5.2	8.1	1.9	1.9
女性	計	7.4	4.8	1.0	10.6	11.8	3.2	2.6
	高卒以下	8.4	5.6	1.6	14.5	10.8	2.4	4.4
	高卒超	6.4	4.0	0.4	6.8	12.9	4.0	0.8
		清掃・ビルメン テナンス	土木・建設現場	製造・組立	事務	塾・予備校教師	その他	N
男性	計	9.3	16.1	6.6	7.2	2.4	12.5	497
	高卒以下	11.8	19.2	8.0	5.6	1.4	10.5	287
	高卒超	5.7	11.9	4.8	9.5	3.8	15.2	210
女性	計	1.6	1.0	4.8	22.5	1.6	14.1	498
	高卒以下	2.4	1.2	4.8	18.1	0.4	10.8	249
	高卒超	0.8	0.8	4.8	26.9	2.8	17.3	249

学歴別にみると、差が大きいのはファーストフードの店員やウエイトレス、コンビニやスーパーの店員、男性では土木・建設現場では高卒以下の若者の割合が高く、女性では事務で高卒超の割合が高くなる。

続いて、フリーター経験の評価について検討した。第1回調査と比較してみると、ほとんど変化は見られなかった。

図表 2-20 フリーター経験評価（年齢別）

	やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた	急に日数を減らされたり、来なくていいといわれて困った	アルバイト先がなかなか見つからなくて困った	やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た	人間関係に関する能力（人とうまく話せる等）が身についた	やりたい仕事をはっきりした	将来に不安を感じた	
計	20.8	5.6	10.6	14.4	41.9	15.6	34.9	
男性	16.7	3.8	15.4	9.0	32.1	5.1	20.5	
18-19歳	17.9	4.8	11.6	14.0	44.0	15.5	33.3	
20-24歳	25.2	7.0	7.9	16.8	43.5	19.6	41.6	
25-29歳	計	17.6	9.0	13.0	11.8	41.9	17.2	31.1
女性	11.4	8.9	13.9	10.1	41.8	16.5	25.3	
18-19歳	17.6	11.2	16.5	12.2	47.9	17.0	40.4	
20-24歳	19.8	7.3	9.9	12.1	37.1	17.7	25.4	
25-29歳								

	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思った	生活が不安定だった	自由な時間を持てた	正社員に比べて収入が少なかった	無回答	N	
計	54.9	16.6	28.9	42.9	31.9	0.6	499	
男性	43.6	11.5	17.9	29.5	24.4	2.6	78	
18-19歳	55.1	14.0	26.6	41.5	31.9	0.5	207	
20-24歳	58.9	21.0	35.0	49.1	34.6	0.0	214	
25-29歳	計	59.7	14.6	20.0	51.1	31.3	0.6	499
女性	55.7	6.3	10.1	34.2	21.5	1.3	79	
18-19歳	61.7	16.5	23.9	55.3	32.4	0.0	188	
20-24歳	59.5	15.9	20.3	53.4	33.6	0.9	232	
25-29歳								

続いて、年齢別にフリーター経験評価について検討した。

男性では、「やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた」「やりたい仕事につくための人脈やチャンスを得た」「人間関係に関する能力が身についた」「いろいろな経験をすることができた」「自由な時間を持てた」などのプラス面は年齢が上がると上昇している。

「将来に不安を感じた」「社会的に認められていないと思った」「生活が不安定だった」などのマイナス面については、年齢があがると高くなる。しかし「アルバイト先がなかなか見つからなくて困った」については、年齢が上がると低くなる。

女性については、「やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた」は年齢が上がると上昇している。「人間関係に関する能力が身についた」「自由な時間を持てた」については 20 代前半で高くなるが、「将来に不安を感じた」も 20 代前半で高くなっている。「社会的に認められていないと思った」「生活が不安定だった」は、10 代と 20 代では大きな差が見られる。

図表 2-21 フリーター経験評価（学歴）

	やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた	急に日数を減らされたり、来なくていいといわれて困った	アルバイト先がなかなか見つからなくて困った	やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た	人間関係に関する能力（人とうまく話せる等）が身についた	やりたい仕事ははっきりした	将来に不安を感じた
合計	20.8	5.6	10.6	14.4	41.9	15.6	34.9
男性	23.0	6.6	9.3	17.3	43.8	17.7	32.7
高卒以下	18.4	3.5	9.5	12.9	42.3	14.9	37.3
高卒超	21.4	8.6	17.1	10.0	34.3	11.4	34.3
該当者なし・わからない	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
女性	17.6	9.0	13.0	11.8	41.9	17.2	31.1
高卒以下	18.8	10.6	14.9	10.1	40.9	17.8	32.7
高卒超	17.1	9.4	10.6	13.5	44.1	17.6	28.6
該当者なし・わからない	15.6	0.0	17.8	11.1	33.3	13.3	37.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思った	生活が不安定だった	自由な時間が持てた	正社員に比べて収入が少なかった	無回答	N
合計	54.9	16.6	28.9	42.9	31.9	0.6	499
男性	62.8	16.8	28.8	44.2	31.4	0.9	226
高卒以下	48.3	17.9	28.9	43.8	32.3	0.5	201
高卒超	50.0	11.4	30.0	37.1	32.9	0.0	70
該当者なし・わからない	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
女性	59.7	14.6	20.0	51.1	31.3	0.6	499
高卒以下	56.7	14.9	24.5	51.9	38.5	1.0	208
高卒超	62.9	14.7	16.3	51.4	26.5	0.4	245
該当者なし・わからない	57.8	13.3	20.0	46.7	24.4	0.0	45
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1

学歴別に見ると、高卒超学歴は「やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた」「やりたい仕事ははっきりした」「自由な時間を持てた」と評価するが、「将来に不安を感じた」「社会的に認められていないと思った」「生活が不安定だった」というマイナス面も強く感じている。高卒以下学歴では男性で「いろいろな経験をすることができた」という割合が高く、女性では「正社員に比べて収入が少なかった」が高くなっている。

父学歴・母学歴についてはあまり差が見られなかったため、経済的豊かさについて検討した。

図表 2-22 フリーター経験評価（経済的豊かさ）

	やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた	急に日数を減らされたり、来なくていいといわれて困った	アルバイト先がなかなか見つからなくて困った	やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た	人間関係に関する能力（人とうまく話せる等）が身についた	やりたい仕事ははっきりした	将来に不安を感じた
計	20.8	5.6	10.6	14.4	41.9	15.6	34.9
男性	21.8	4.7	6.2	15.5	46.6	18.7	38.9
豊か	20.7	7.1	14.9	14.1	39.4	11.6	34.4
豊かでない	18.5	3.1	7.7	12.3	36.9	21.5	24.6
該当者なし・わからない	17.6	9.0	13.0	11.8	41.9	17.2	31.1
女性	16.4	8.7	7.3	13.2	36.5	15.1	27.9
豊か	17.9	9.4	18.9	10.4	46.7	18.4	32.5
豊かでない	20.6	8.8	13.2	11.8	44.1	20.6	36.8

	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思った	生活が不安定だった	自由な時間が持てた	正社員に比べて収入が少なかった	無回答	N
計	54.9	16.6	28.9	42.9	31.9	0.6	499
男性	50.8	21.2	30.6	43.5	34.2	1.0	193
豊か	57.7	14.5	30.7	43.6	30.7	0.4	241
豊かでない	56.9	10.8	16.9	38.5	29.2	0.0	65
該当者なし・わからない	59.7	14.6	20.0	51.1	31.3	0.6	499
女性	60.7	14.2	28.3	50.7	29.2	0.5	219
豊か	58.5	14.6	12.6	50.9	33.0	0.9	212
豊かでない	60.3	16.2	17.6	52.9	32.4	0.0	68

「アルバイト先がなかなかみつからなくて困った」という割合が、男女とも豊かでない層で高い。これはアルバイト先を見つけなくてはいけないというプレッシャーが豊かでない層で特に高いため、こうした評価が多くなっていると推測される。また「人間関係に関する能力が身についた」が男性では豊かな層で、女性では豊かでない層で高い。「社会的に認められていないと思った」割合が特に男性の豊かな層で高かった。

以上から、2001年と2006年を比較すると、フリーター期間が長い者の割合が増加し、フリーター職種も広がりを見せていた。しかしフリーター経験者のフリーター経験に対する評価は変化しなかった。

5. まとめ

本章では、フリーター経験率とフリーター理由、フリーター3類型、フリーター経験評価について、2001年からの変化に留意しながら分析した。

- ①東京都の18-29歳層においては、2001年の約36%から2006年にはおよそ半数がフリーターを経験するようになった。特に10代では男女とも7割を超え、高卒以下学歴では男性で6割、女性で7割を超えている。
- ②フリーター理由を2001年と2006年で比較すると、「仕事以外にしたいことがあるから」「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」「なんとなく」が増加した。「自分に合う仕事をみつけるため」「学費稼ぎなど、生活のため一時的に働く必要があったから」「自由な働き方をしたかったから」については減少した。年齢・学歴・家庭の経済的豊かさによって、フリーター理由は異なっていたが、特に経済的な豊かさについては、男女とも豊かでない層で「仕事以外にしたいことがあるから」が高く、豊かな層で「つきたい仕事のための勉強、準備、修行期間として」の割合が高い。また女性では「学費稼ぎなど、生活のため一時的に働く必要があったから」「家庭の事情で」を上げる割合が豊かでない層で高く、家庭の経済的状況が特に女性を直撃している。
- ③フリーター3類型について検討したところ、2001年に比べて夢追求型が増加し、やむを得ず型は減少した。特に夢追求型は年齢が高い層で増加した。10代後半層の女性ではやむを得ず型が増加し、男性ではモラトリアム型が増加した。フリーター3類型については、年齢ではなく、世代からも解釈できると考えられるが、かつて年齢があがると減少していた夢追求型は、年齢があがっても減少しなくなった。また生家が経済的に豊かでない、やむを得ず型が多いという傾向が強まった。
- ④フリーター期間について検討したところ、3年以上フリーター経験がある者が4分の1を占め、年齢別に見ると、男性の20代後半層では37.9%が、女性では35.1%が3年以上のフリーター経験があった。また半年以内の割合は減少した。学歴別には、男性ではあまり差は見られないが、女性では学歴が低いとフリーター期間が長い。
- ⑤年齢によって経験職種は変化しており、18-19歳層は男女とも店員やウエイトレスを経

験した割合は、男性が7割、女性は8割を占めるが、20代後半層になるとその割合は下がり、かわりに男性は土木・建設現場、女性は事務や雑貨小物屋・本屋等の店員が増加する。学歴別にみると男性では土木・建設現場では高卒以下の若者の割合が高く、女性では事務で高卒超の割合が高くなる。

⑥フリーター経験の評価についての変化は見られず、「いろいろな経験をすることができた」「自由な時間を持てた」「人間関係に関する能力が身についた」が上位を占め、「やりたい仕事に直接役立つ能力が身についた」「やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た」「やりたい仕事ははっきりした」などは低い水準でとどまっている。

この点については5年間で変化はなく、フリーター経験の評価は、この5年間であまり変化はなかったことがうかがえる。

ただし詳しく見てみると、「アルバイト先がなかなかみつからなくて困った」という割合が男女とも豊かでない層で高く、「人間関係に関する能力が身についた」が男性では豊かな層で、女性では豊かでない層で高い。また「社会的に認められていないと思った」割合が特に男性の豊かな層で高かった。経済的豊かさは、フリーター経験の評価を左右している。

大都市の若者においては、この5年間でフリーター経験は一般化した。特に若い低学歴層においては、フリーターを経験しない方が珍しくなった。これほどまでにフリーター経験が一般化すると、かつてのフリーター経験と今日のフリーター経験は同じではありえないことが予想される。かつてのフリーターは「選択」の様相を見せていたが（実際はそうでなくとも）、今日、高校以降の進学をしない若者にとって、フリーターになることは「選択」の結果ではなくなっている。本調査だけではうかがい知ることができないが、フリーターの分析にあたっては、こうした変化にも留意することが必要である。

直近の1、2年を除くと、この5年間労働市場の状況はよいとは言えなかった。フリーター3類型については、2001年調査では年齢が上がると夢追求型は減少していたが、2006年調査では年齢を問わず一定数を占めるようになった。この点についての解釈は難しいが、仮説としては、第1章で見たように、正社員の労働条件が悪化し、特に長時間労働になったことから、仕事に中心の正社員と、仕事以外にも力を注げるフリーターとの二者択一を迫られるようになったということなのだろうか。他方で、生家の経済的豊かさがフリーター3類型の分布に影響を及ぼすようになっており、豊かでない層でやむを得ず型が多く分布するようになった。

また経験職種については年齢と世代を区別するのは難しいが、年齢から検討すると、若いときはサービス・販売職が中心であるが、年齢を経ると異なる仕事に変化していた。日本労働研究機構が1999年にインタビュー調査を行なった際には、フリーターは若くないと仕事が見つからないとの意見が見られたが、フリーターの需要が高まっている今日においては、

年齢が 20 代後半になっても仕事はある。これは「アルバイト先がなかなか見つからなくて困った」という割合は、年齢があがると減少していることから確認できる。しかし年齢があがってもフリーターとしての仕事に困らないという状況は、フリーターから離脱しようとする志向を弱めるように働くことも予想される（次章参照）。

同様に、フリーター期間が半年以内という、短期のフリーター経験者は少なくなり、長期化したフリーターが増加しているということは、フリーター期間が長期化すると離脱が難しくなるという前回調査の知見と照らし合わせると、次章で検討するフリーターから正社員への離脱を困難化させることが予想される。

こうしたフリーター経験の一般化、フリーター理由、フリーターとしての職種、フリーター期間についての変化が、フリーターから正社員への離脱に大きな影響をもたらしている点については、次章で検討される。